

教員名	森山 新 (MORIYAMA, Shin)
所 属	国際教育センター
学 位	文学博士 (日本語教育学) 教育学修士 (日本語教育学)
職 名	助教授
URL / E-mail	http://jsl.li.ocha.ac.jp/morishin1003/ / morishin@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

認知言語学 / 第二言語習得 / 日本語教育

◆主要業績

総数 (12) 件

- ・多義語としての格助詞デの意味構造と習得過程 認知言語学論考 5:1-48、ひつじ書房
- ・JSL (第二言語としての日本語) における格助詞デの習得過程に関する認知言語学的考察
日本認知言語学会論文集 6:464-474 日本認知言語学会
- ・韓日英トライリンガル生徒の言語能力・言語運用と環境との関係 日本学報 70:25-42 韓国日本学会
- ・グローバル時代に求められる総合的日本語教育と認知言語学 研究年報 3:111-117 比較日本学研究センター

◆研究内容

科研基盤研究 C「認知言語学的観点を生かした日本語教授法・教材開発研究」の第2年目として、日本、韓国中国の学会等にて口頭発表や講演を行った。その成果は「多義語としての格助詞デの意味構造と習得過程」の研究がひつじ書房から共著で刊行、その他科研2年次報告書が出版された。日本認知言語学会では、「JSL (第二言語としての日本語) における格助詞デの習得過程に関する認知言語学的考察」が論文集に掲載されたほか、「応用認知言語学的な日本語教育の試み」の口頭発表が行われた。

インターネットを用いた留学生教育研究を進め、「インターネットライブ教室による渡日前遠隔教育」が人文科学研究に掲載されている。

多言語習得研究 (科研基盤研究 B、萌芽研究、共に研究分担者) として (4th INTERNATIONAL CONFERENCE ON THIRD LANGUAGE ACQUISITION AND MULTILINGUALISM) にて発表された内容などが科研報告書にまとめられている。

◆教育内容

比較日本学研究センター長として、日本学国際コンソーシアム、国際日本学シンポジウム、公開講演会などを実施した。

グローバル文化学環の教員として、また比較日本学研究センターの研究委員として「グローバル時代の総合的日本語教育」に関する研究を行っている。またそれを基盤に日本学の国際コンソーシアム結成、韓国・同徳女子大学大学院、北京日本学研究センターなどとの間でのジョイント授業を実施した。その内容は報告書にまとめられている。

さらに国際教育センター専任教員として、18名の本学学生を引率し韓国の同徳女子大学にて第3回日韓大学生国際交流セミナーを実施した。(このセミナーは、全学科目「異文化交流実習1」として開講されたものである)。その内容は報告書としてまとめられている。

◆Research Pursuits

In the second year of the project of “The Research of Teaching Methods and Materials for Japanese Language Education” supported by the Grants-in-Aid for Scientific Research, Category C, I gave talks in several conferences held both in Korea, China and Japan and also published the following papers: (1)“The Semantic Structure and the Acquisition Process of Japanese Case Particle De as a Polysemy” (Studies in Cognitive Linguistics NO.5), (2)“The Annual report of the project supported by the Grants-in-Aid for Scientific Research”

I developed the study of Japanese language and Japanese cultural understanding education using e-learning and published a paper entitled “Distant Learning Through Live Internet Lessons Before Visiting Japan”.

As a co-researcher on the project of “the Research of Multi-lingual Acquisition” supported by the Grants-in-Aid for Scientific Research, Category B, and Grants-in-Aid for Exploratory Research, I gave two talks entitled “How are languages transferred by a Korean-Japanese-English trilingual student?” in the 4th International Conference on Third Language Acquisition and Multilingualism and “The relation between linguistic competence, performance and environment: A case study of a Korean - Japanese - English trilingual student” in the Korean Association of Japanology, respectively.

◆共同研究例

グローバル時代の総合的日本語教育（韓国、中国、モンゴル、ベトナムなど）

◆将来の研究計画・研究の展望

- 1) 科学研究をもとに、認知言語学を日本語教育（教授法・教材開発）に応用する。
- 2) グローバル時代にふさわしい総合的な日本語教育を模索する。
- 3) 遠隔教育についての研究を進め、国際理解教育や留学生教育などの教育へいかす。

◆受験生等へのメッセージ

グローバル時代を迎え、日本語教育の需要が高まっており、そのための研究も重要性を増している。言語教育には学習者中心の視点が重要であり、その意味で第二言語習得研究をふまえることが重要である。また言語習得理論など応用言語学の成果も参考にする必要がある。

そのため、韓国、中国など、東アジアとのネットワークを構築しつつ、①認知言語学や第二言語習得研究を日本語教育に活かす、②文化をも取り入れ、グローバル時代にふさわしい総合的な日本語教育を模索する、③遠隔教育などの効果的利用を模索する、といった研究活動を進めていきたいと思います。

◆Educational Pursuits

As the director of the Center for Comparative Japanese Studies, I established the international consortium on Japanese Studies with 6 graduate schools in Korea, China, Taiwan, England and Czech, and I conducted joint education programs and symposium. The result was published as “The Report on the Joint Education with a Graduate School in Abroad”.

As a member of the faculty of the Global Studies for Inter-Cultural Cooperation and as a member of researchers of the Center for Comparative Japanese Studies, I continue to study on “Holistic Japanese Language Education in the Global Era”.

I, furthermore, as a faculty member of the International Exchange and Education Center, held “The 3rd International Exchange Seminar for Japanese and Korean Students”, visiting Dongduk Women’s University in Korea with 18 students. This seminar was organized as a subject “Practicum of International Cooperation 1” open to all undergraduate students. The result was published as “The Report on the 3rd International Exchange Seminar for Japanese and Korean Students”.